

開催の概要①

- ◆主 催 みんなあつまれ実行委員会
- ◆後 援 神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、
神奈川県市長会、神奈川県町村会
- ◆事業費 650万円
- ◆開催目的
障がいのあるなしに関わらず、パラスポーツやアートやグルメなど、同じ体験を共有し、ともに楽しむことを通じて、「ともに生きる社会」を自分の身近に考えるきっかけとしていただく。

開催の概要②

イベント名	日時	会場 (住所)	来場者数
ツナガリ ウォーク	4月27日(土) 11:00~15:30	山下公園 (横浜市中区山下町)	1,800人 (2,000人)
大和市民 まつり	5月11日(土) 12日(日) 10:00~16:00	引地台公園・ 引地台中学校 (大和市柳橋)	7,200人 (180,000人) 5/11 80,000人 5/12 100,000人
大船まつり	5月19日(日) 9:00~16:00	JR大船駅東口周辺 (鎌倉市大船)	3,800人 (97,000人)
多摩ふれあい まつり	6月16日(日) 10:00~15:30	多摩区総合庁舎 (川崎市多摩区登戸)	1,600人 (4,000人)

開催の概要③

イベント名	日時	会場 (住所)	来場者数
藤沢市民 まつり	9月28日(土) 10:00~17:00 29日(日) 10:00~16:00	藤沢駅周辺ほか (藤沢市南藤沢ほか)	4,600人 (136,000人) 9/28 66,000人 9/29 70,000人
アシガラ マルシェ	10月12日(土) 10:00~16:00	未病バレーBIOTOPIA (ビオトピア) (足柄上郡大井町山田)	荒天のため中止
ホッチポッチ ミュージック フェスティバル	10月20日(日) 11:30~17:00	日本大通り周辺 (横浜市中区日本大通)	15,000人 (30,000人)

※ () は、連携イベントの集客数

ツナガリウォーク

- 「共に歩む、共に創る」がテーマのイベント、ツナガリウォークと連携して実施した。
- “ツナガリウォーク”中に、「ともに生きる」のぼりを持って知事が来場者とともに歩くことで、多くの方に憲章の理念を広めることができた。

出店コンテンツ(内容・体験人数)

- ・ 障害者フライングディスク競技
(ゴールに向けて投擲・150人)
- ・ ボッチャ
(試合形式での競技体験・200人)



連携イベントによる関連ブース

〈スポーツ〉

- ・ フロアホッケー

〈ワークショップ〉

- ・ 手芸品
- ・ ハーバリウム

〈飲食〉

- ・ のこのこBAR・ドリンク
- ・ 弁当、パン

大和市民まつり

- 市内外から多くの人を訪れる地域のお祭り、大和市民まつりと連携して実施した。
- ステージ上で知事が憲章に触れてあいさつをしたほか、憲章うちわの配付を通じて、多くの方に憲章の理念を広めることができた。また大変多くの方にパラスポーツやワークショップを体験していただき、障がい者と来場者の触れ合いが盛んに行われた。

出店コンテンツ(内容・体験人数)

<スポーツ>

- ・車いすラグビー (タックル体験等・256人)
- ・パラローイング (モニターを使った競技体験・1,221人)

<アート>

- ・工場画のライブペイント (studio FLAT・50人)
- ・箸袋 (アトリエ言の葉・130人)
- ・大きな紙にみんなで描こう (アール・ド・ヴィーブル・50人)



連携イベントによる関連ブース

<商品販売>

- ・生活雑貨
- ・缶バッチ
- ・手芸品

<飲食>

- ・たこ焼き
- ・チャーシュー
- ・やきそば
- ・フランクフルト
- ・焼菓子

大船まつり

- 仮装パレードや、青空グルメ、コンサート、はしご車体験など、親子連れの方が一日中楽しめるイベント、大船まつりと連携して実施した。
- 障がいのある方と一緒にパレードで「ともに生きる」横断幕を持って歩いたほか、憲章うちわの配付やブースの出店を通じて、多くの方に憲章の理念を広めることができた。

出店コンテンツ(内容・体験人数)

- ・ 地元障がい者団体と一緒に仮装パレードへの参加
- ・ ボッチャ（試合形式での競技体験・450人）



多摩ふれあいまつり

- “バリアフリー わたしとあなたとこの街と”をテーマに、多摩区内の福祉に関心のある人たちが集まり、バリアフリーの地域づくりをアピールするイベント、多摩ふれあいまつりと連携して実施した。
- スタンプラリーを主催者と連携して実施したほか、憲章うちわの配付やブースの出店を通じて、多くの方に憲章の理念を広めることができた。

出店コンテンツ(内容・体験人数)

- ・ 車いすラグビー (タックル体験等・72人)
- ・ ボッチャ (試合形式での競技体験・200人)



Kanagawa Prefectural Government

連携イベントによる関連ブース

〈スポーツ〉
・ 車いすスラ
ローム

〈ワークショップ〉

- ・ 陶芸マグネットの絵付け
- ・ フラッグ
- ・ 機織り
- ・ ビーズアクセサリー
- ・ バンダナ刺繍

〈飲食〉

- ・ パン
- ・ 焼菓子
- ・ ジヤム

藤沢市民まつり

- 「キュンとするまち。藤沢」をテーマにパレードやマーチングフェスティバルをはじめ、多彩なイベントを実施する、藤沢市民まつりと連携して実施した。
- ご当地キャラクターイベントに憲章普及キャラクター「チャーたん」が参加したほか、憲章うちわの配付やブースの出店を通じて、多くの方に憲章の理念を広めることができた。

出店コンテンツ(内容・体験人数)

- ・ ご当地キャラクターイベントへの参加
- ・ ボッチャ（試合形式での競技体験・150人）



ホッチポッチミュージックフェスティバル①

- 国・世代・性別・障がいの程度などにかかわらず、誰もが集える「ごちゃませ音楽祭」である、ホッチポッチミュージックフェスティバルと連携して実施した。また、同日開催の横浜よさこい祭りとも連携した。
- パラスポーツ体験ブースや障害福祉サービス事業所によるアート・グルメブースの出店の出店、その他関連団体による出店を通じて、多くの方に憲章の理念を広めることができた。



ホッチポッチミュージックフェスティバル②

出店コンテンツ(内容・体験人数)

<スポーツ>

- ・車いすラグビー
(タックル体験等・97人)
- ・車いすテニス
(モニターを使った競技体験・121人)

<アート>

- ・トートバック作り (希望更生センター・60人)
- ・ノート作り (アトリエ言の葉・62人)
- ・トモヤ店長との腕相撲 (studio COOCA・15人)

<グルメ>

- ・チョコレート等スイーツの販売
(ショコラボ)
- ・コロッケの販売 (照手)
- ・惣菜、弁当の販売 (喫茶ポトピ)

【スポーツ】



【アート】



【グルメ】



出店コンテンツ(内容・体験人数)

<その他>

- ・ 信号機補助装置の体験 (信号機委員会・800人)
- ・ ボッチャ体験・片手で使えるアイテムの展示 (東京ガス株式会社・250人)
- ・ 憲章プリントクッキーの配布 (関東学院大学社会学部・500人)

【信号機補助装置の体験】



Kanagawa Prefectural Government

【ボッチャ体験】



【クッキーの配布】



ホッチポッチミュージックフェスティバル④

- 4つあるステージではみんなあつまれのテーマソングSO LIFE GOES ONなどをクレイユークーズがライブで演奏したほか、サルサガムテープ等、障がいのあるアーティストも出演した。
- また、SO LIFE GOES ONのダンス大会を実施した。大会では、事前に実施したダンス練習会に参加した、横浜明朋高校と高津養護学校の2校と一緒に踊ったほか、同日に開催していた横浜よさこい祭りとも連携し、最後は来場者も巻き込み会場が一体となってダンスを行った。

【クレイユークーズライブ】



Kanagawa Prefectural Government

【サルサガムテープライブ】



【SO LIFE GOES ONダンス大会】



開催結果（まとめ）

項目	成果
憲章普及	<ul style="list-style-type: none">・ 憲章うちわ10,100枚配布・ 憲章ティッシュ2,200個配布・ ボールペン500本配布
パラスポーツ	<ul style="list-style-type: none">・ 延べ2,917人が参加（6会場で開催）・ 障がい者と来場者が触れ合いながら体験した
アート	<ul style="list-style-type: none">・ ワークショップやブースに延べ382人が参加（2会場で開催）・ 障がい者と来場者が触れ合いながらオリジナルグッズの作成や体験を行った
グルメ	<ul style="list-style-type: none">・ 延べ967人が来場（1会場で開催）・ 障害福祉サービス事業所の方が調理したフードやスイーツを販売した

◆来場者アンケート①（回答者数：899人）

- 「ともに生きる社会かながわ憲章を知っていますか」との質問項目については、「知っている」は(20%)、「言葉は聞いたことがある」は(27%)となった。

県民ニーズ調査の結果より、認知度が高いことから、みんなあつまれに参加したことで、憲章を認知したと考えられる。

- アンケート回答者の年齢層は、40代以上が67%である一方、20代は5%と低いことから、イベント来場者についても若者が少ないものと推測され、今後は、若年層など、より幅広い世代に来場していただく必要があり、様々な年代が来場するイベントとの連携も必要だと考えられる。

◆来場者アンケート②（回答者数：899人）

- イベントに来場して、「共生社会」や「障がい福祉」への理解が高まったかとの質問項目については、「関心が大いに高まった」(23%)と「関心が少し高まった」(52%)を合わせた《高まった》が75%となった。
- 「ともに生きる社会」を自分の身近に考えるきっかけづくりとする「みんなあつまれ」の目的は概ね達成できたが、昨年度のアンケート結果では《高まった》が85.4%だったこともあり、前年度から数値が悪化しているため、改善も必要である。

◆出店者（障がい当事者）アンケート①

- ・利用者と地域の方々が触れ合うことができた。
- ・利用者の方の社会参加の機会になった。
- ・利用者も来場者も楽しんでワークショップができた。
- ・事業所の日頃の活動を知ってもらうことができた。
- ・事業所に興味をもってもらえた。

などの意見があり、障がい者と来場者がともに楽しむことができていた。また「ともに生きる社会」を身近に感じるきっかけになったと言える。

- ・他の事業所と交流ができた。
- との意見もあり、様々な地域にある事業所の利用者同士も触れ合うことができ、事業所同士情報交換ができる機会となった。

◆出店者（障がい当事者）アンケート②

- ・ブースの近くに水道設備がほしかった
- ・もっと早い時間から搬入したかった
- ・出店マニュアルをもう少し早くもらえれば、事業所としてさらにイベントPRができた

とのご意見があったため、ブースごとの特性を鑑みながら、搬入時間や共有設備を設定していく必要があったと言える。

成果と課題①

区分	成果	課題
憲章の理念の普及	<p>障がい福祉等への関心が高くない方にも憲章の理念を伝えることができた。</p> <p>来場者アンケートでも認知度の高さが確認できた。</p>	<p>アンケートの回答者の年代から推測されるように40代以上が多い。</p> <p>若年層など、より幅広い世代に来場していただく必要があり、様々な年代が来場するイベントとの連携も必要だと考えられる。</p>
地域・イベントとの連携	<p>県内6か所で開催でき、地元で活動する障害福祉サービス事業所に出店していただけた。</p>	<p>連携の度合いがイベントによってばらつきがあった。</p>
事前広報	<p>県内の駅や学校、実行委員会の委員の方々にご協力いただき、各方面に広く周知できた。</p>	<p>「障害福祉情報サービスかながわ」への掲載が遅れ、障害福祉サービス事業所への広報が遅くなってしまった。</p>

成果と課題②

区分	成果	課題
バリアフリー対応	<p>手話通訳者や筆談ボードを配置した。</p> <p>会場内で移動困難な状況が発生しないよう注視できた。</p>	<p>ホッチポッチミュージックフェスティバルでは、独自のイベントチラシを作り点字版も作成したが、ルビふり版、拡大版のチラシが用意できていなかった。</p> <p>それ以外のイベントでは、憲章の点字版チラシがあればよかった。</p>
コンテンツ (スポーツ・アート・グルメ・その他)	<p>障がい者と来場者の交流ができていた。事業所の日頃の活動に興味を持っていた。ただけた。</p> <p>障がい者団体や企業・大学生の出店など連携先が広がった。</p>	<p>ブースによって、参加者の入りにばらつきがあった。スタッフによる呼び込みが不十分であった。</p>

- 事前広報やバリアフリー対応、各コンテンツへの呼び込みなどの課題については、来年度改善していく。

◆地域イベントとの連携

→今年度「みんなあつまれ」としっかり連携できたイベントを中心に、来年度以降も引き続き連携していき、県内各地で広がりや継続性のある展開とする。

◆他イベントとの連携

→若年層など、より幅広い世代が訪れるイベントや企業による出展があるイベントといった、多様なイベントとも連携し、新たな層へのさらなる憲章の普及に努める。

◆東京2020オリンピック・パラリンピックとの連携

→来年度開催されるオリパラに向けて、関連イベントと積極的に連携し、オリパラを契機としてこれまで以上に憲章の普及を図っていく。

イベント例

- ・機運醸成イベント（200日前イベント、100日前イベント、壮行会）
- ・聖火フェスティバル
- ・東京2020ライブサイト
- ・NIPPONフェスティバル



(2019年度NIPPONフェスティバル
プレイイベントの様子)

参考（2019年度実行委員会開催状況）

回数	開催日	議題
第1回	平成31年 4月11日	(1)2018(平成30)年度 みんなあつまれ 実行委員会の決算（案）について (2)2019(令和元)年度 みんなあつまれ 実行委員会の予算（案）について (3)2019(令和元)年度 みんなあつまれ 春開催（案）について
第2回	令和元年 7月11日 (書面開催)	(1)2019(令和元)年度 みんなあつまれ 秋開催（案）について (2) 2019年度の決算（案）について
第3回	令和元年 12月6日	(1)2019（令和元）年度 みんなあつまれの 検証結果について (2) 2020（令和2）年度 みんなあつまれの 方向性について